



未来の
ために、
いま選ぼう。



2016年6月1日
イオン株式会社
イオンアグリ創造株式会社

イオングループ店舗の食品残さを堆肥とした農産物を生産 イオン完結型食品リサイクルループが完成！ TCGFのベストプラクティスとして紹介されました



イオン完結型食品リサイクルループで栽培したキャベツ

イオングループの農業法人、イオンアグリ創造株式会社（以下、イオンアグリ創造）は、6月1日（水）より、関西地区のイオングループ店舗に向けて、イオン完結型食品リサイクルループで生産した農産物の本格出荷をスタートしました。

食品リサイクルループとは、売れ残りや食べ残りなどの食品残さを堆肥化させて土に還し、その土で農産物などを栽培する、環境にも配慮した循環型の取り組みです。

イオンの食品リサイクルループは、グループ内店舗から排出した食品残さを堆肥としてリサイクルし、イオンの直営農場で農産物を生産、再びグループ店舗に供給するという「クローズド・リサイクルループ」である点を特徴としています。

イオンアグリ創造は2014年9月、再資源化事業に取り組む大栄環境株式会社（以下、大栄環境）と「食品リサイクルループ推進に関する協定」を締結しました。以来、イオングループの総合スーパーや食品スーパーの各店舗から出る野菜くずのほか、賞味期限の切れた肉類やパンなど（昨年度計約3,500トン）を大栄環境が回収し、コンポストファクトリーから有機堆肥を産出、この堆肥をイオンアグリ創造が運営するイオン兵庫三木里脇農場で使用し、農産物の生産に活かすべく準備を進めてきました。

本年1月より土づくりに着手し、産出した有機堆肥約60トンと同農場の野菜畑11.2haの全圃場に施肥、農産物の栽培を進めました。今回収穫されたキャベツは、6月より兵庫県内のグループ店舗に本格出荷していきます。本年度はキャベツのほか、だいこん、はくさい、ほうれん草、ミニトマトなど約500トンの農産物の出荷を見込んでいます。

また、「クローズド・リサイクルループ」としての実施規模などが世界的に評価され、2016年4月、TCGF（The Consumer Goods Forum／世界70カ国、約400社にのぼる世界最大の消費財流通業界の組織）にてベストプラクティスとして紹介されています（※）。

イオンは「サステナブル経営」の実現に向けて、「ビッグチャレンジ2020」に取り組んでいます。「2020年までに廃棄物ゼロ（そのまま焼却し埋め立てする廃棄物ゼロ）」を目指し、「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rの手法を通じて、ステークホルダーと連携し資源循環型社会の構築に寄与しています。イオンは今後もグループを挙げて、環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

■イオンの食品リサイクルループによる農産物について

販売開始日：2016年6月1日（水）より順次展開

食品残さ回収および農産物販売店舗：兵庫県三木市を中心とする「イオン」「マックスバリュ」店舗
※時期や天候により変動します。また、順次店舗を拡大予定です。

品目：キャベツ、だいこん、はくさい、ほうれん草、ミニトマトなど
出荷量：年間約500トン



食品残さを使用した有機堆肥



イオン兵庫三木里脇農場

■イオンアグリ創造の食品リサイクルループに関する取り組み経緯

- 2014年 9月 大栄環境株式会社と食品リサイクルループ事業のパートナーシップ協定を締結
- 2014年11月 農林水産大臣・環境大臣・経済産業大臣より食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律第19条3項の規定に基づく再生利用事業計画（食品リサイクルループ）の認定取得
- 2014年12月 大栄環境株式会社がイオングループ各店舗から食品残さの回収～堆肥化を開始
- 2015年 3月 初回産出分として生産した6トンの肥料を、イオン兵庫三木里脇農場に施肥
- 2016年 1月 本格的産出分の60トン、同農場の全圃場に施肥～生産を開始
- 2016年 6月 本格的な出荷を迎える

※ TCGF best practice <http://bit.ly/CGFClimateBook>



未来の
ために、
いま選ぼう。

イオンは、低炭素社会の実現に向けて政府が主導し、エコにつながる製品やサービス、行動など「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス）」に賛同しています。

イオン完結型食品リサイクルループの概要



【イオンアグリ創造株式会社について】

商 号：イオンアグリ創造株式会社
代 表 者：代表取締役社長 福永 庸明
本社所在地：千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
設 立 日：2009年7月10日
主な事業内容：青果物の生産、加工、卸売、小売
資 本 金：5,000万円
株 主：イオン株式会社100%



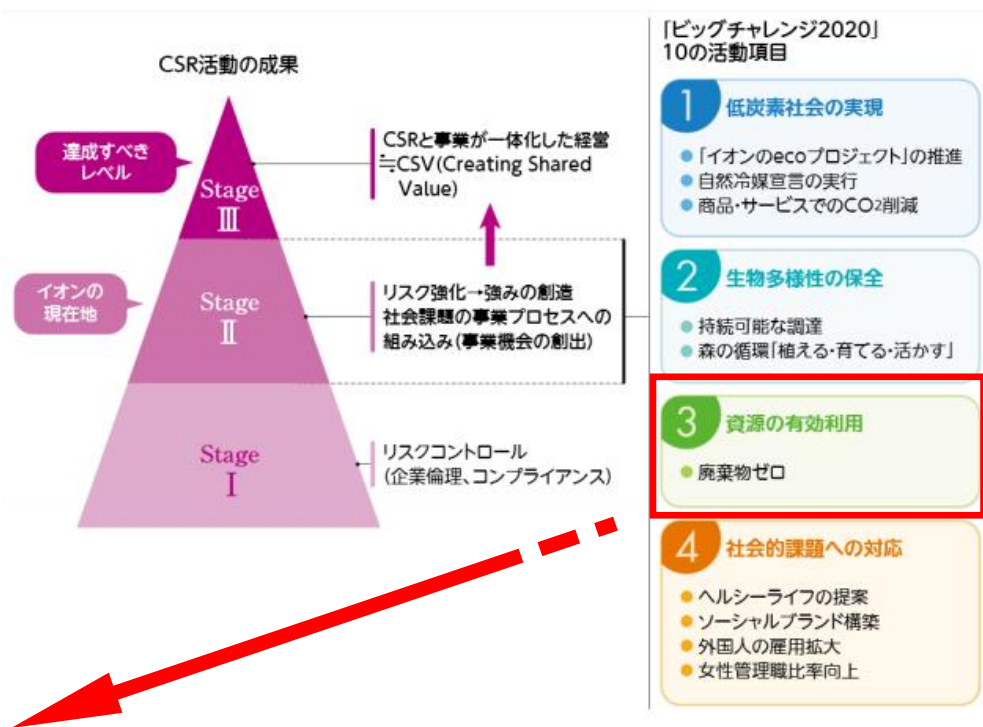
2009年7月に設立したイオンアグリ創造株式会社は、イオン直営農場の運営および農産物の生産委託に取り組むイオン株式会社の連結子会社です。地域密着経営というイオンの基本理念のもと、お客さまにご満足いただける農産物を生産・提供すること、持続可能な未来の農業に参画することを目指し、2009年9月に第1号農場を茨城県牛久市に開場。以来、キャベツやほうれん草といった定番野菜から、在来品種や地域性を鑑みた伝統野菜を、全国で21箇所の農場で約30品目を生産しています。

イオン農場の野菜は、収穫後直接イオンの物流センターに入り店舗に配送されるため一般的な市場流通農産物と比較した場合、1～2日早く店頭並び、お客さまに新鮮な農産物をご提供することができます。一方、2015年11月より地域限定で供給を始めた「今朝採り野菜」は、文字通り、朝収穫してから3～4時間で店頭並び、画期的かつ圧倒的な鮮度の農産物をお客さまにお届けしています。

イオンの持続可能な経営の実現を目指す取り組みについて

イオンは、事業のグローバル化が飛躍的に進展し、環境・社会への影響度も格段に高まりつつあるなか、グループ全体でより積極的にCSR活動を推進し、「グループの成長」と「社会の発展」を両立させる「持続可能な経営」を実現していくために、2011年、「イオン サステナビリティ基本方針」を策定・発表しました。2014年、社会環境や経営環境の変化に対応しながら持続可能な経営をさらに前進させていくために、CSR活動の成果を3段階のステージ(Stage)に分類、現状の活動レベルをステージⅡと自己評価した上で、2020年までにステージⅢに到達することを目標に、達成に必要な10の活動項目からなる「ビッグチャレンジ」を掲げました。2015年には、これら活動の進捗状況をもとに、社外の有識者の皆さまから今後の活動に対する示唆をいただく場を設けるなど、現状に留まることなく、持続可能な社会の実現を目指し責任ある企業行動に継続して努めています。

■ビッグチャレンジ2020



■イオンの食品に関する「廃棄物ゼロ」についてのコンセプトと取り組み

コンセプト

「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3Rの手法を活用して、廃棄・燃焼され、埋め立てに回るゴミをゼロにしていきます。取り組みにあたって、お客さまやステークホルダーの皆さまと連携し、資源循環型社会の構築に寄与します。

取り組み

▷店舗・商品を通じて

見える化、ISO14001、廃棄売変削減、分別・リサイクル等を通じて、店舗と商品のサプライチェーンの食品廃棄物を削減

▷お客さまとのコミュニケーションを通じて

食育や店頭キャンペーンを通じて、お客さまとともに食品廃棄物を削減

▷地域とともに

地域のステークホルダーと連携して、リサイクルループの構築や、フードバンク等への寄付を通じて食品廃棄物を削減

以上